

塩の川（上流部）

一九七五年七月二十七日

平沢長光

◆天気（晴）

前夜男沼にてビバークしたが、ホテルの乱舞が印象的だった。今日は塩の川の遡行。天候にも恵まれ、足どりも軽い。

六時四五分沢に入る。一五分でつばくろ滝へ。直登できないとわかつているので右岸から捲いて上に出る。ゴルジュ帯の始まりだ。ナメ状の滝を一つ越えると大きな釜を持ったぎんぜんの滝。右岸を少し登り、岩棚をトラバースするような感じで捲く。右岸の側壁はおおいかぶさるような感じで威圧感を感じる。小滝をシャワーで越えたりしながら進む。一〇分を左岸から捲いてゴルジュは終了。何だかホッとした気分になる。

ゴルジュ帯は終了したというものの、ここから銚子滝までは大小の滝がいくつもかかる塩の川の中では最も美しい所だ。ただ塩の川の大きな滝に共通していえること

だが、上部の岩は固いのに下部はポロポロでオーバーハング状になっているため直登できない。右岸、または左岸を捲いてゆくことになる。大きな滝以外でも腰までの渡渉をやったり、エイッと一気に対岸へ飛び移ったりする所などがあって、変化に富んで退屈しない。銚子滝を左岸から捲き、次のやな滝で昼食をとる。

やな滝の先しばらくは滝もかからず平凡となる。飽きてきた頃左岸から末広りの美しい滝となって支流が合流する。そして久々の一〇分滝。塩の川の水はこの滝の滝つぼからわき出す水ですべてまかなわれていて、この



腰まで水に入る（塩の川）



塩の川・くらげ滝

先は涸れ沢となっている。冷たいきれいな水だ。一泳ぎとしゃれこんだが、これはこの先の行程に大きな疲労を呼んだ。

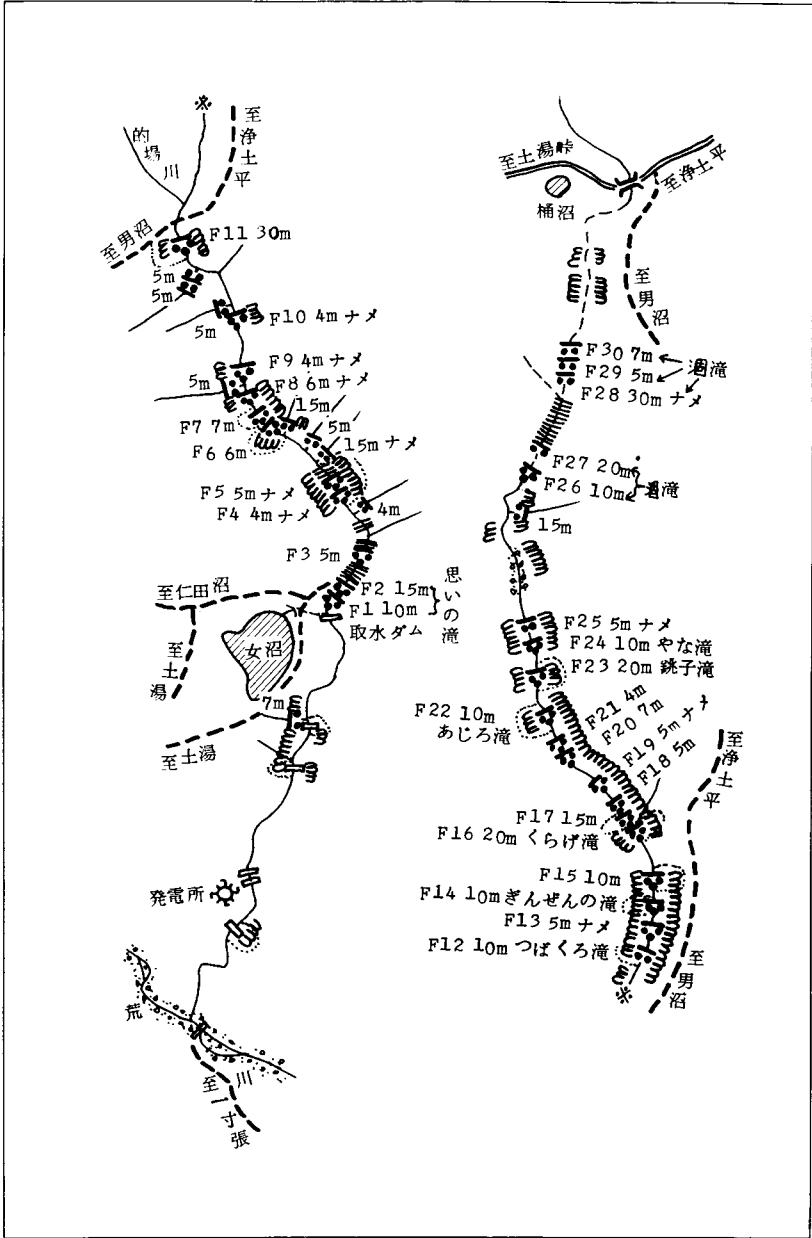
涸れ沢になってからの見物は三つあった。まず一〇〇と二〇〇の二つの涸滝。それに「雪代の床」と名付けられた一五分も歩き続ける長いナメ。そして最後に三つ連続する滝の直登。誰かが「水が流れていればなあ」とため息をついたが、全く同感である。スカイラインが開通する前はとうとうと水が流れていたというのを実証するかのように、所々に深い釜や甌穴があり岩はよくみがかれている。自動車道路の開通による浄土平湿原の破壊は塩の川の流れを奪ってしまったのだ。残念である。

前方に吾妻小富士が見えてきた。長い塩の川ももう終わりだ。スカイラインまで沢をつめて二五時四〇分浄土平に着く。

(記・

〔タイム〕

男沼五・四〇―塩の川出合六・四五―つばくろ滝七・〇〇―くらげ滝九・一五―あじろ滝一〇・三〇―銚子滝一一・〇五―雪代の床一三・五〇―浄土平一五・四〇



塩の川 (作区)